

第84回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2016年5月9日(月) 14時～17時

兼題「噴水」

- 川井素山 ○春月の影移りゆく棚田かな
花は葉に大川端の串団子
遠見にも釣果の分る罔鮎
噴水の園の木立にギターの音
- 保井寶正 ○菖蒲湯や老軀沈めて足るを知る
噴水の穂玉となりて子等を追ふ
旅の宿手延べガラスに夏柳
たちまちに木漏れ日かくす木下闇
- 青木英林 ○伽藍背に白いぼうたん風に揺れ
夏蜜柑道に零れて空家あり
噴水に一陣の風子等駆ける
微風と眩い日射し夏来る
- 後藤克彦 ○藤棚に残りし花の寂しさよ
噴水の高さに油断髪濡らす
葉桜の仰ぐ人無き名所かな
春眠しシニアガイドの長話
- 佐久間喬 ○噴水や空の青さに上着脱ぐ
仰ぎ見る瞳の中に柿若葉
噴水に陽が集まりてはじけ飛ぶ
この国の揺れ吹き払ふ青嵐
- 丸山酔宵子 ○^{ひたすら}只管に青し信濃路五月晴れ

^{な い}地震が来て枯れた噴水崩れ落ち

夕陽射す樹々の青葉が^{きら}輝めいて
五月晴れ川の音枕で湯に浮ぶ
- 菊地崇之 ○入れ食いのカツオ降りくるデッキかな
今日まさにカーネーション花売屋
柏餅甘き誘惑命懸け
噴水や小便たれて水飲んで

- 牧野里山 ○森の中桜いちぼく一木 咲き誇り
間欠泉地震にも負けず噴き上がり
木漏日の下に集いて将棋さす
花雲りサラサラとして竹の径
- 吉田啓悟 ○牡丹園しじまの中を中国語
まっすぐに鶴の噴水飛びだせり
風待ちて藤いちめんの昏さかな
いちめんに薬散りゆきて春惜しむ
- 佐久間たか子 ○葉桜や鎌倉巡る人力車
薫風や視界はみ出す萌葱色
神宮の玉砂利しめる若葉雨
噴水の見てるまに消ゆ淡き虹
- 山本草風 ○残雪を遠くに眺め昼寝かな
畑打つも遠くの山は雨模様
水温む妻の手指に思いはせ
若人の噴水のごと精気かな
- 佐伯兵庫 ○時忘れ腰が戻らぬ草捲り
噴水にメロディ流れてウェルカム
木漏れ日に心溶け込む森林浴
声あげて友が指さす踊花
- 渡辺鯨波 ○噴水の起承転結人は虚ろ
噴水や地裁庁舎に人集く
噴水や自撮りで燥ぐ異邦人
慇懃な噴水午後の憂うつかな

次回「萩句会」

日時 2016年6月13日(月)14時～17時

場所 元箱根 山のホテル

兼題 『夏野』一句 当季雑詠三句 計四句